

JAMの主張

芳野友子連合会長を 誇りと自覚を持って支える

JAM会長 安河内賢弘

【機関紙JAM・2021年10月25日発行 第273号】

2021年10月6日、第17回連合定期大会で、JAM副会長である芳野友子氏が第8代連合会長に就任しました。

今、時代は大きな転換期を迎えています。18,000人を超える死者を出し、東日本大震災と同等の大災害となったパンデミックがワクチンの普及によって次のステージへと向かう中で、世界は新たな社会を模索し始めています。また、カーボンニュートラルやデジタルトランスフォーメーションなどの技術革新は加速しており、各国が生き残りをかけて激しい開発競争を行っています。

こうした技術革新は、私たちの雇用や働き方に大きな影響を与える可能性があります。また、技術開発、人材育成、設備投資などに十分な資金を拠出できない中小企業と大手企業の間にも更なる格差が生まれる危険性もあります。

そして、足もとでは、パンデミック禍によって、私たちの社会がいかに不安定雇用で働く仲間や女性労働者、外国人労働者などの犠牲の上に成り立っているのかが最悪の形で明らかになりました。

今こそ議論を重ね、そして行動を起こす時です。

現実に甘んじるのではなく、未来を創造する。多様性に満ち自由で平等で寛容な社会を私たちの理念として共有する。誰かの犠牲の上に成り立つ成長ではなくて、性別や国籍、企業規模に関わらず、すべての働く仲間の幸せを追求し、誰一人取り残されない社会を具現化していく。

こうした理想を労働運動として昇華させ、社会の歪みの中でもがき苦しんでいるすべての働く仲間と共に社会変革へとつなげていく強固な意志が連合運動に求められています。

そして、今、JAMから連合初の女性会長が誕生しました。このことは結成以来積み重ねてきたJAM運動を時代が求めた結果であり、この必然的な帰結に私たちは誇りと自覚を持って、芳野友子連合会長を支えていかなければならないと考えております。

JAMの仲間の皆様の今後益々のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

共にがんばりましょう！